

1. 専門研究会の名称

ラドンの防護規準に関する専門研究会

2. 提案者名

飯本武志（東京大学環境安全本部）t-iimoto@adm.u-tokyo.ac.jp

連絡先住所 〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1

米原英典（放射線医学総合研究所）yonehara@nirs.go.jp

連絡先住所 〒263-8555 千葉県千葉市稲毛区穴川 4-9-1

細田正洋（放射線医学総合研究所）m_hosoda@nirs.go.jp

連絡先住所 〒263-8555 千葉県千葉市稲毛区穴川 4-9-1

3. 提案理由

ラドンに関する濃度対線量換算のための係数について、大幅な変更が ICRP 等で検討されている。本年6月にはNRPBによってイギリスの対策レベルを現行の200 Bq m⁻³から100 Bq m⁻³に引き下げるといった内容のプレス発表を行った。さらに、9月下旬にはWHOの報告書が出され、ほぼ同時に米国で開催されるラドンシンポジウムでは、報告書の内容について議論された。一方、日本保健物理学会放射線標準化委員会では、「現存する被ばくの防護に関する安全規準」の枠組みの中で、ラドンの線量規準が提示された（平成21年3月）が、その具体的な現場運用についての議論はこれからである。参考となる状況別の資料や技術的な資料（添付資料を参照のこと。これらを参考資料と呼ぶ）の策定が強く求められているが、専門性が極めて高いラドンに関する詳細な議論は、上記のような国際的機関の動向を注視しつつ、研究的な側面を導入しながらの専門家の意見交換が不可欠である。本専門研究会では、参考資料の優先順位や策定にかかる手順を検討し、その手順にしたがい、最新の国内外の動向に注意しつつ、着手できるものから、日本の状況に適合した資料の策定を実施する。すでに先行している「ラドン測定標準化専門研究会（平成20-21年度）」は、研究的側面から、測定方法の標準化を目指している。この専門研究会ともメンバーを重複することでより専門的な議論を可能にすることができる。

4. 計画の概要

原則的に電子メールベースでの情報交換、意見交換を中心とした活動になるが、年に4回程度、コアメンバーが参集し、活動の方向性、状況を確認する。本研究会での成果が、標準化委員会によるガイドラインや資料等の基盤となるよう整理を工夫する。

5. 予算

委員会開催費（交通費、資料印刷費等）	平成21年度	20万円
	平成22年度	20万円

6. 予定される研究会員名

主査：飯田孝夫（元名古屋大学）

幹事：細田正洋（放医研）

委員：飯本武志（東京大学）、石川徹夫（放医研）、石森 有（JAEA）、五代儀貴（環境科研）、北口博司（日立）、黒澤龍平（元早稲田大学）、真田哲也（分析セ）、下 道国（元藤田保健大）、反町篤行（放医研）、田阪茂樹（岐阜大学）、床次眞司（放医研）、橋本 周（JAEA）、安岡由美（神戸薬科大学）、山崎敬三（京都大学）、山西弘城（核融合研究所）、柚木 彰（産総研）、吉永信治（放医研）、米原英典（放医研）

*下線のメンバーは、「ラドン測定標準化専門研究会」の委員。

7. 設置予定期間

1期2年（平成21年度～平成22年度）

以上